

原っ子だより

上田市立本原小学校学校だより
令和2年7月30日 特別号

新型コロナウイルスに関する差別や偏見をなくしましょう！

6月中旬には、長野県内の新型コロナウイルス感染症拡大が収束しつつあるかと思われました。しかし7月に入り、全国で再び感染者数が増え始め、連休過ぎからは激増しています。そして、長野県内の警戒レベルも2に引き上げられました。

コロナウイルスがもつ3つの顔

学校や家庭では、感染を防ぐための「新たな生活様式」を取り入れた対策を行っていますが、それでもいつ身近で、我が身に感染が起こるかも分かりません。感染者にならない、感染者を出さないことを目標にして生活はするものの、自分や家族、周囲の人々が感染したらどうするかについても考えていかなければなりません。

日本赤十字社によれば、3つの顔をもつコロナウイルスの「負の連鎖」を断ち切るよう示しています。

- 1 病気そのもの — 命をも奪う感染症であること
- 2 不安と恐れ — この感染症について分からないことが多く、ふりまわされること
- 3 嫌悪 偏見 差別 — 不安と恐れが引き起こす人々や社会のつながりを壊すこと

特に、3つめは人権侵害です。目に見えない敵＝ウイルスへの不安。それが見えるものを敵と見立てて、嫌悪の対象となります。そうした特定の人に「危険だ」「バイ菌だ！」というレッテルをはることで、偏見、差別がおこります。

こうした心理により、コロナウイルス感染者に対して差別的な行動、偏った見方をする人は、必要以上に避けようとする態度をとるようになります。それがいじめ、差別的な対応といった人権侵害となっていくのです。

自分自身の感染が疑われる場合であっても差別をおそれ、受診をためらい、結果的に感染が拡大するというマイナスの結果にもなりかねません。

また、感染した方、医療従事者とその家族、外国人等に対して、不当な差別、偏見、いじめ、SNS等での誹謗中傷があってはなりません。不当な偏見や差別に同調せず、冷静に行動していきましょう。

もし友だちや家族が感染したら、あなたはどのような行動をとりますか？

感染者は被害者です。今は、私たち自身が冷静に判断して行動できるかどうか、私たちの人権感覚が試されている時なのかもしれません。

感染者を責めたり、憶測で物事を伝えたり、うわさを広めたりすることは決してないようにしていきたいものです。

負の連鎖を打ち切り、今自分にできることを考えて行動していられるよう、学校、地域ぐるみでこのコロナ禍に向き合っていきましょう。